

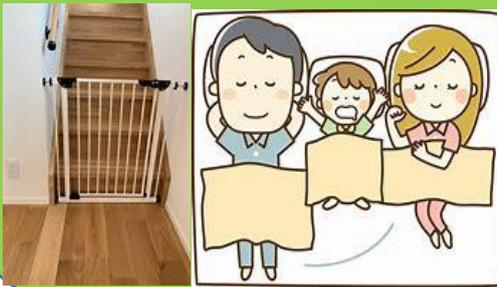
0、1、2 歳児の安全対策について

こどもの事故は年齢や発達により事故の内容は様々です。

事故の傾向として多いもの「**転落**」「**転倒**」「**誤飲・誤嚥（ごえん）**」が多い。

転落 0 歳児はベッドや椅子からの転落や壁との隙間に転落して窒息するケース

1、2 歳児は階段からの転落が事故の大多数です。



□階段には転落防止の柵をつけましょう

□ベビーゲートの緩みやぐらつきを確認しましょう。

□大人用ベッドやソファに寝かせる時に壁の隙間に注意しましょう。

□大人用ベッドやソファに寝かせる時に一瞬でも目を離さないようにしましょう。

転倒 0・1・2 歳とも転倒時に「机・テーブル類」に頭をぶつける怪我

1 歳からは母親がこどもを自転車に乗せている時に転倒する「自転車」が増加



□机の脚や棚の角など、転倒してぶつけた際に大きな怪我につながるような箇所は柔らかいカバーなどを、できるだけつけましょう。

□伝い歩きの時期など、自立が完璧でない時期は特に目を離さないよう見守りましょう。

□お子さんを自転車に乗せる際は注意に注意を重ねましょう。

誤飲・誤嚥（ごえん） 0、1 歳はタバコ、2 歳は医薬品が上位、ボタン電池はどの年代でも上位



□こどもの手が届く所に口に入れそうな物、落ちたら危険な物は置かないようにしましょう。

□低い場所の扉や引き出しは、開けられないようにしておきましょう。

その他にも身近に潜んだ危険はたくさんあります。お子さんの行動を見て「何をしようとしているのかな?」「最近こんな物に興味を持ち始めたな。」など、行動の先を見ることもまた大切です。

今回は以下のサイトを参照にした事故について掲載しました。実際にあった事故の詳細が事例で載っているため、「ハッ!」とすることや「ひやり」となることもあるかと思えます。事故が起きる前の対策に一度ご覧になってみて下さい。

